

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500168		
法人名	有限会社 とーか		
事業所名	グループホーム とーか		
所在地	山口県周南市政所4丁目11番13号		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町受理日	平成22年10月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の中、周りには畑や田んぼがあり、季節を感じられる環境の中にとーかはあります。4月より保育士を雇用し、子供連れでの勤務ができるよう環境を整えました。利用者様にもとても良い刺激となっている様子で笑顔が多く見受けられるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族との連携や情報提供がきめ細かく行なわれ、健康管理連絡表として、毎日のバイタルや生活、介護の状況を一覧にして毎月送付しておられ、家族訪問時は記録を明示しながら、健康状態や暮らしぶりを報告され、今後の介護に活かしておられます。3ヶ月に1回の家族会や家族会が主催する行事もあり、事業所と家族の連携の下に支援を行っておられます。家族会主宰のおはぎ作りでは、出来上がったおはぎをご近所に届けたり、防災訓練や外部講師を招いて開催する講習会へは地域の人も参加され、緊急時や避難時の支援体制についての話し合いが行われるなど、地域との連携を図られています。育児中の職員も働きやすいよう保育士を雇用して施設内保育を実施され、乳幼児と利用者のふれあいや関わりもあり、乳幼児の泣き声や笑い声に活気と生気が感じられます。管理者は当日勤務の介護職の枠外におり、フリーの立場でケアに関わることから、利用者一人ひとりの思いや希望、緊急時に対応されています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念(惜福・分福・植福)を基に、地域密着サービスについて話し合い、利用者が地域の中で日々楽しく過ごせるよう地域との関係強化を目指しています。	法人の理念「惜福・分福・植福」を基に、地域密着サービスとしての具現化を「元気な気持ちで一日一回は笑って戴き、それを継続してゆく」としており、運営者・管理者・職員の総意として、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、日々の食品も地域の小売店から購入したり、買物に出かけたりしています。またご近所から野菜やお花の差し入れもあります。	自治会に加入して自治会行事に参加し、事業所が行なう研修会や行事には地域住民が参加するなど、双方向の交流がある。事業所で作ったおはぎのおすそ分けや、地域からの野菜や花の差し入れ、ボランティアとして利用者とのお話や窓拭き、掃除等の援助があり、散歩時には声かけも行なわれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等の案内を近隣にもお出しし参加を頂いています。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員に自己評価をしてもらいそれを施設長・管理者・計画作成担当者でまとめさらに職員会議で再確認しています。指摘されたことは改善するように	評価の意義や目的について全職員で理解しており、職員同士の話し合いを深めながら自己評価を行い、評価を活かして業務の改善や確認の機会としている。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修にも参加していただき、積極的に関わってくださっています。評価の報告も必ずしています。	2ヶ月に1回、定例的に実施しており、事業所の状況報告を行ない意見交換をしている。事業所が実施する研修への参加や多くの提言も寄せられ、サービスの向上に役立てている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議にもほぼ毎回参加されその時にもいろいろ相談・報告をしており、研修講師の紹介もしてもらったりしています。	日頃から連絡連携は密にしており、連絡・相談・助言を受ける機会を設け、よりよい協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放しています。夜間一人で起き上がられると危険が予測される方へは鈴を置かしていただくなど、拘束のないよう取り組んでいます。	身体拘束については、研修やミーティングで関係職員共々正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も行なわれていない。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を開催し、啓蒙しています。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を開催し、職員間で権利擁護についての認識を深めました。現在対象者はおられません。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時には出来る限りご本人、ご家族と共に来所いただき、施設内も見学していただき、説明をしています。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見をお聞きするようにしています。また、ご家族から意見などいただいた場合は速やかに責任者へ報告しています。	相談や苦情を受ける窓口や職員、外部機関、第三者委員、苦情処理の手続きを明確にし、家族や利用者等、関係者に周知されている。提案された意見や要望は職員会議や家族会、運営推進会議で取り上げ、運営に反映させている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や懇親会で意見交換をする機会を設けてあります。	職員会議やリーダーミーティング、懇親会等、話し合う場が確保されており、運営者や管理者は職員の随時の提案にも耳を傾けて、運営に反映させている。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	身体的理由による勤務体制の対応や、妊娠にしたスタッフも継続して働けるよう勤務体制を整えています。育児中のスタッフも働けるよう保育士を雇用しています。		

グループホーム とーか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年次計画をたて、内部・外部研修も勤務の一環として提供し、報告をしてもらっています。	職員個々の希望や経験に応じ、外部研修を推奨して支援し、資格取得の支援も行なわれている。内部研修も計画的に実施しており、働きながら学ぶことを進めている。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会や近隣のグループホーム連絡協議会の研修・勉強会・懇親会に参加し、情報交換・交流をしています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用して把握し、サービス計画に活かすよう努めています。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすいような雰囲気作りに努めています。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ入所段階にない方についてはケアマネと相談しサービス提供を支援しています。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬うよう職員間で啓蒙し、利用者から料理・お花作り・野菜作りを教してもらい支えあう関係を築くようつとめています。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒にお茶を飲んでいただき、ご家族と過ごす時間を大切にしています。面会時には記録に目を通していただき、ご家族との情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を居室においていただいたり、話題に上げたりしています。また友人・近隣者の面会もご家族の同意を得てしてもらっています。	家族の理解と協力を得ながら、友人や近隣者の面会に対応し、観音様への参詣や行きつけの美容院の利用など、馴染みの人や場との関係が途切れないよう、個別に支援している。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志で話しが弾むようユニット間でも協力し話をする場を提供しています。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設長を主として面会やお見舞いに伺っています。また、ご家族とも連絡をとったりしています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケート等で把握に努めていますが答えられない方は担当者会議等で話し合っています。	本人の日常の何気ない会話やつぶやきから思いや意向を把握しており、記録や会議等で職員間で共有している。利用者へのアンケート調査を行ない希望を聞いており、困難な場合は本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して情報収集し、スタッフ間で共有しています。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活シートやセンター方式を活用して、お一人おひとりの生活パターンや残存機能の把握に努めている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を開催し今必要な支援を見つかるよう努めています。家族の方とは面会の折に意見を伺っています。また健康管理については協力病院の医師に随時相談し、介護計画の作成に活かしています。	毎月担当者会議を開催し、介護の経過を把握しており、状況に変化が生じた時は、その都度、計画の見直しをしている。通常、6ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画を更新し、利用者や家族、スタッフ、主治医の思いや意見が尊重された介護計画が作成されている。	

グループホーム とーか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や気付き、ご本人の言葉、ご家族の意見などは個別記録にスタッフ各々が記載。計画作成担当者はそれをピックアップし計画に反映させるよう努めています。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでできるサービス以外の対応は無いように思います。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	川崎観音へ月に1度のお参りを援助しています。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご本人、ご家族の意思を尊重しています。また必要時には随時協力医院の医師に連絡し、通院、往診などにて敏速に対応していただいています。	利用者や家族の希望にそったかかりつけ医となっており、必要に応じ協力医院への通院や往診、専門病院への紹介状などが行われ、適切な医療や緊急時の対応が確保されるよう配慮している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の契約医の定期往診時に相談報告をするようにしています。必要に応じて訪問看護ステーションに相談、助言を依頼しています。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長、管理者を主として面会やお見舞いに伺って情報交換に努めています。また入院中もご家族と定期的に連絡を取っています。近隣の病院のSWとの関係作りにも努めています。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を確認し、家族・医療機関と話し合い、方針を決めるようにしています。	本人・家族の気持ちを尊重しながら主治医とも話し合い、方針を決めている。訪問看護ステーションとの連携もあり、重症化や終末期に向けた対応をする用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	誤薬の無いう、服薬介助時には声を出しての確認をするよう努めています。また看護師による応急処置訓練等を行っています。	ケアプランの中で本人の状態に応じた事故防止策が考えられており、ヒヤリはっと報告書や事故報告書を検証しながら事故防止に取り組んでいる。看護師や消防署の指導を受けながら、緊急時の対応や応急処置が出来るよう訓練をしている。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも協力をさせていただき、訓練を行っています。今後の課題として夜間を想定した訓練、中途採用の新人への訓練の実施について検討して行きたいと考えています。	地域や消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、災害を想定した地域の協力についても、話し合いが行なわれている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいはいるが、危険を伴う場合には安全を優先させていただいている(居室の戸の一部開放等)また職員会議で常に話題に上げ啓蒙し、問いかけの声掛けをするようにしています。	職員は常に研修や会議で確認しあっており、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような声かけや対応が行なわれている。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけによる声かけで自己決定ができるよう支援するよう努めています。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今の勤務体制ではなかなか一人ひとりのペースを優先することは難しいのが現実ですが、努力はしています。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をご自分でされる方もおられますし、定期的にスタッフがお化粧の援助をさせていただいたり、ご自分で服を選んだりいただいています。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備・食事・片付けをしています。	利用者と職員と一緒に食事の準備や盛り付け、片付けをしている。団欒をしながら同じ食事を皆で一緒に食べ、食事を楽しむ事が出来るよう支援している。	

グループホーム とーか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の少ない方は量を記録し摂取していただけるよう努めています。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。義歯は夜間お預かりし、消毒をしています。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して声掛けをしています。	一人ひとりの排泄パターンや習慣、本人の思いを尊重しながら、個別に支援している。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らないよう支援したいと思い、毎日朝食時にはバナナ・ヨーグルトを提供し、水分補給に気をつけています。毎日の体操はしておりますが、運動量の足りていない方もおられるかと思えます。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴をしていただけるようにしていますが午後3時30分からが入浴時間としていますので個々の希望に添えているのかどうか。今のところ午前や夜8時頃の希望者はおられません	毎日入浴できるよう配慮しており、午後3時30分から一人ひとりの希望に応じた入浴の支援をしている。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きていただくよう支援し、夜間十分な睡眠が取れるよう努めています。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し活用していますが、副作用までの把握を全スタッフが十分把握できてはいないかと思えます。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや役割りをお願いして張り合いを持って頂けるよう支援しています。詩吟、琴、食事前後の合掌など	日常の家事や食事前後の挨拶など、本人の生活歴や力量を活かした関わりで活躍できる場をつくり、ぬり絵や和裁、生花、習字等好きな手仕事を楽しみ、ドライブや散歩を楽しんでいる。	



グループホーム とーか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>行事として遠くへのお出かけや外食にご家族と一緒にったり、日ごろは近くを散歩したり、買物と一緒に行っていただき、地域の方と触れ合えるよう支援しています。</p>	<p>市街地の奥まった場所にあり、畑や田んぼなど自然も多く、周辺環境に恵まれており、日常的に散歩や外の空気に触れている。ホームの行事として花見や紅葉狩りに出かけ、買物にも対応している。</p>	
51		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分で管理されている方は少なくほとんどお預かりしていますが、買物時はお金をご本人にお渡しし支払っていただいたりと支援しています。</p>		
52		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>日常的ではありませんが要望があれば支援しています。また母の日などにはご家族にカードを書いていただき、皆様大変喜ばれていました。</p>		
53	(23)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生花・カレンダー・壁面を季節感のある作品で飾ったりしています。マッサージチェアも活用していただいています。</p>	<p>リビングなど共用空間には、ソファや椅子が置かれ、坐っておしゃべりが出来る畳の間もあり、居場所の確保につながっている。壁面の飾り付けや対面式厨房、厨房カウンター下の整理棚等、馴染みのある空間となっており、安心して過ごせる雰囲気がある。</p>	
54		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや和室、廊下の椅子、玄関のテーブルと椅子などゆっくりと過ごしていただく場所の工夫をしています。</p>		
55	(24)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真や思い出のあるものを居室に置いて頂いています。</p>	<p>タンスが備えつけられているが、その他の物は家族と相談しながら利用者の思い思いの物が搬入され、安心して過ごせるように配慮されている。壁面には本人の作品や家族の写真も飾ってあり和やかな空間となっている。</p>	
56		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>下駄箱に名前・たんすには何がしまっておりか書くことで、できることはできるだけ自分でしていただくよう支援しています。</p>		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム とーか

作成日：平成22年10月12日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	業務を優先してしまい利用者の方と一緒に過ごす時間が減ってきている。また職員間でも対応がバラバラである。	職員間で対応を統一し、利用者の方と一緒に過ごす時間(寄り添う時間)を増やす。	10時、15時のおやつの際には必ず利用者の方と一緒にお茶をし、その中でその方のやりたいこと、やりたくないこと、できること、できないことを把握し対応を統一する。	1ヶ月
2	15	研修、勉強会、懇親会に参加するスタッフが少なく、参加するスタッフも決まっている。	研修、勉強会、懇親会に参加するスタッフを増やす。	研修、勉強会、懇親会がある際には書面だけではなく、直接声を掛けて参加を呼びかける。	3ヶ月
3	36	年に2回の消防訓練のため、中途採用の職員に十分な指導が行えていない。また夜間の火災における訓練を実施していない。	全スタッフが万が一の災害、緊急時に迅速に適切な対応ができる。	夜間想定の実施。新人スタッフへの緊急時の対応についての研修の徹底。緊急時のマニュアルの有効活用。	一年
4	48	服薬について。全スタッフが利用者皆さんの服薬、副作用について十分な理解はできていない。	全スタッフが利用者の方の服薬、副作用について理解できている。	服薬表の活用。副作用一覧の作成。服薬変更時の服薬表の速やかな変更。	6ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。